

市政ニュース

但馬初の人工芝スタジアム誕生！ 「このとりスタジアム」リニューアルオープン事業開催

4月2日、豊岡総合スポーツセンター「このとりスタジアム」の人工芝生化改修工事の完成を記念して、リニューアルオープン事業を開催しました。

改修は、スポーツ振興くじ助成金を活用し、内野の一部を除き全面に人工芝を敷いた他、夏場の暑さ対策のため、1・3塁側の両ベンチにミスト噴霧装置や、選手の安全のため、外野壁などに防護マットも設置しました。

同スタジアムは、市民の利用だけでなく、NOMOベースボールクラブの本拠地として



▲新しい人工芝の上を走る中学校の野球部員ら



▲野茂英雄さんの助言で、内野の一部に土を採用した新しい「このとりスタジアム」

て利用され、また、兵庫県高等学校野球連盟公認の野球場で、但馬地方で唯一、夏の高校野球県予選大会が開催されています。

テープカットセレモニーの後のイベントで、市内の小・中学校の野球やソフトボール部員らが、ホームラン競争やベースランニングで、新しい人工芝の感触を確かめました。その後、NOMOベースボールクラブと新日鐵住金広畑の記念試合が行なわれました。

環境都市「豊岡エコバレー」のシンボル 「豊岡エコバレー・竹貫地場ソーラー」竣工式を挙

再生可能エネルギーの地産地消とエネルギー利用の多様化を促進するために整備した大規模太陽光発電事業「豊岡エコバレー・竹貫地場ソーラー」の第2期発電所が完成し、3月30日、第1期発電所（昨年11月に発電開始と併せた竣工式を開催しました。

竹貫地場ソーラーは、豊岡市営の発電所として最大規模。最大出力1123・08kWで、一般家庭の約323軒分の発電量を見込んでいます。



▲本市最大規模の竹貫地場ソーラー

安全・安心な学校づくり 市立の小・中学校の耐震化率100%達成

本市は、昭和56年6月の建築基準法の改正以前に建築した新耐震基準に満たない小・中学校の耐震化を、平成18年度から順次進めてきました。平成27年度に実施した3校の耐震補強工事の完了に伴い、市立の全小・中学校の耐震化が完了しました。

今後、安全・安心な学校環境の確保に努めます。



▲昨年度耐震工事が完了した豊岡南中学校

主な市政の動き

【3月】

18日・(株)ゼンリン「災害時における地図製品等の供給等に関する協定」締結
市図書館未来プラン検討会議

21日・市歴史的建築物保存活用検討委員会
地方創生大臣補佐官伊藤達也さん本市視察

22日・「豊岡市学校施設整備計画」策定
「出石の伝統的町家造りの手引き」発刊

23日・豊岡農業スクール研修結果報告会、修了式

29日・認知症高齢者等見守り・SOSネットワーク事業開始

30日・「豊岡エコバレー・竹貫地場ソーラー」竣工式

【4月】

1日・一般社団法人兵庫県水質保全センター「災害時における浄化槽等の復旧活動等に関する応援協定」締結

2日・豊岡市地域おこし協力隊委嘱状交付式

2日・「このとりスタジアム」リニューアルオープン事業を開催

5日・「竹野北前館ジオエリア拠点施設」オープン記念式典

竹野地域の魅力を北前館から発信！

「竹野北前館ジオエリア拠点施設」オープン記念式典開催

4月5日、竹野北前館のリニューアルオープン記念式典を開催しました。

竹野北前館は、平成4年に開館し、北前船の資料などを展示していましたが、平成22年に山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに認定されたことから、竹野を総合的に紹介・案内できる「ジオエリア拠点施設」として、昨年6月から整備を進めてきました。展示室の1階中央には、直

径5mの立体地形模型を設置し、プロジェクトクションマッピング（CG映像）で、竹野の地形の成り立ちや、人々の生活文化を紹介しています。2階には、北前船で使われた道具や関係史料を展示しています。また外壁には、焼き杉板、ロビーには、ジオカヌー体験なども申し込めるインフォメーションセンターを設置しました。新しくなった北前館から竹野の魅力を発信します。



▲竹野の地形の成り立ちなどを紹介するプロジェクトクションマッピング

4月から新しい施設でごみ処理開始！

広域ごみ処理施設「クリーンパーク北但」火入れ式開催

3月18日、北但行政事務組合（豊岡市・香美町・新温泉町）が建設中の広域ごみ処理施設「クリーンパーク北但」で、工事関係者の他、管理者、構成市町議員、地元区役員など約70人が出席し、施設の安全な稼働を祈念する火入れ式が行われました。

4月から、ごみの受入れを始めたクリーンパーク北但は、最先端の排ガス処理技術を導

入し、燃やすごみ1日142トン、粗大ごみ・資源ごみ19トンを処理することができ、施設です。焼却炉は24時間運転で、焼却排ガスから熱回収を行い、高効率のごみ発電も行います。災害時は、水や食料を備蓄した避難拠点施設として地域住民を受け入れます。今後7月の完成に向け、周辺整備などの工事を行います。



▲火入れのボタンを押す管理者の中貝市長（右から2人目）

中貝市長の徒然日記 102

「ハートリーフ」なのだ

少子化対策を担当する組織の名前を職員と考えました。「結婚促進室」はどうでしょうか？」「子宝戦略室」は？」「うーん、婚活パーティーの主催者の名前が『子宝』だったら、腰、引けるよね。もっとふんわりした名前、ない？」

で、女性職員が思いついたのが「ハートリーフ」でした。オーストラリアにあるハート型をしたサンゴ礁の名前で、これを一緒に見たカップルは幸せになれるという伝説があります。「おお、いいね！」

豊岡の人口減少の主要因の一つに、未婚率の上昇があります。そこで、未婚率対策などを練る組織を「ハートリーフ戦略室」にしました。これまで市は、結婚はした

いけど出会う機会がないという声にこたえて、社会福祉協議会の婚活応援プロジェクト「はーとぴー」の運営費を補助してきました。はーとぴーでは、「R+恋さくら♥（ホテルレストランで昼食パーティー）」

「キミと恋シヨコラ♥（バレンタインデーの香りづくり）」、「恋して♥たこchub（たこ焼きパーティー）」など、おしゃれないイベントが月1回程度開かれてきました。大人気で定員オーバーが続くため、新年度は、予算を20回分に増やすことにしました。

もちろん、結婚が必ず幸せになる道とは限りません。一人の方が気楽だという面もあります。しかし、鳥のように空も飛べず、犬よりも走るのが遅く、イルカのように海に潜ることもできない、生きものとして誠に弱い人間が家族をつくって助け合う、というのは結構いい戦略だと思います。

ある方がこんなことを言われました。「金婚夫婦の会で、市長が『夫婦が一人になると、背中が膏薬を貼ってもらったとでもできない』とあいさつするのを聞いて、しんみり、なるほどなあ、と思ったがな」今年度は不妊治療への支援を充実し、流産等が続く不育症の治療への補助も始めます。オーストラリアに行かなくても、豊岡で♥になろう。